

2015 年度第 1 回学部評価会議報告

■概要

日時：2015 年 5 月 25 日（月）19：00～21：00

場所：株式会社マイツ 東京事務所

■学部評価会議 参加者

池田 博義 氏

マイツグループ 代表取締役統括社長

※以下、五十音順

浅川 潤一 氏

千葉商科大学附属高校 教頭

五島 勝也 氏

バナラ・エア株式会社 代表取締役副社長

須田 秀伸 氏

千葉県高等学校教育研究会 国際教育研究部会長

土田 博幸 氏

内外日東株式会社 管理部 人事研修チーム チーム長

宮内 史絵 氏

株式会社フィナンシャル・エージェンシー 業務本部 CSC 部 担当部長

保永 年貞 氏

株式会社ジェイコム市川 代表取締役社長

■本学関係者

宮崎 緑 国際教養学部学部長

山田 武 教授

五反田 克也 教授

久保 裕也 准教授

本学関係者より、学部の年度教育計画とこれまで実施した教育内容の報告を行い、参加者より下記のご意見やご助言をいただきました。国際教養学部では、この度いただいたコメントを教授会で共有し、今後の教育活動に活かしていきます。

海外フレッシュマンキャンプの学びをどのように活かすのか

- 企業においては社員を海外へ送り出す際、まずは企業理念やビジネスの基礎を身に付けるため、皆が同じ目的意識を持てるという利点がある一方、自由な発想がなくなるというリスクもある。見知らぬ学生同士が、固定概念のない状態で参加するという環境で研修を実施できたことは、学生にとって社会に出ても必ず役に立つ経験となっただろう。今後も、日系企業の話聞くなどし、物事を見極められる視点に磨きをかけることを期待する。
- 大学が進めるアクティブラーニングの 1 つとしている体験型学習の一環として、入学式直

後に海外へすぐに飛び立ち、世界を肌で感じる事ができたことは、研修成果の1つである。今後はその経験を活かし、学生自身が自ら課題を発掘し、どのようにして学びを広げていくのが重要である。また、外国語におけるコミュニケーションと語学試験のスコアはイコールではないものの、コミュニケーションの相互理解は基礎語学力の上に成り立っていると考えられるので、語学学習のモチベーションも上げていただくことを勧める。

- 海外フレッシュマンキャンプについては、まず経験からモチベーションを高め、学習へ入るといった反転学習の要素が含まれており、興味深いアクティブラーニングであると言える。この学習の成果を、今後のどのようにして結び付けていくのが課題である。
- 海外フレッシュマンキャンプに同席する機会があったが、学生のグローバル人材に対する意欲を大いに感じた。来年は、より異文化を体験できるホームステイや先輩学生の参加など、さらに充実した研修内容を考えてみてはどうか。

国際教養学部第1期生として送る学生に向けて

- 国際教養学部として入学されたみなさんは第1期生ということもあり、今後、先輩のいない学部のなかで迷うこともあるかも知れないが、学生にはこの環境の中で自分がどのようなグローバルパーソンを目指すのか、突き詰めて欲しい。学部の特色でもある、少人数教育を活かし、面談等とおして教職員と良い関係性を気づけたらよい。
- 新卒採用に関わっているが、最近の大学生は、遠い未来を見て話をすると感じている。クォーター制を通じて、スモールステップで学修を積み重ねることにより、近い未来を見て考えるというトレーニングを行うと良い。異学年の学生とゼミ等で学修する機会が有益ではないだろうか。
- 今後、国際教養学部への入学を考える高校生にとって、海外フレッシュマンキャンプは1つのポイントであるが、他大学との差別化においては、まだ発展の余地があるのではないか。今後は、2つの言語習得や一定以上のスコア取得などを掲げ、国際教養学部としての特色を強く出していただきたい。

グローバル企業が求める力

- 語学は採用基準にはならないので、語学力よりも人間力が大切である。
- 語学は採用時の加点ポイントにはなるが、それが決定打にはならない。交渉力やお客様、社内での信頼関係を築ける素養を持っていることが重要である。
- 語学能力だけでなく、論理的に説明できる思考力や能力を磨いておくことの方が重要である。
- 学生時代に、ものごとを深く考えるクセを付けておくと良い。プレゼンテーションを行う際も、どうしてそのように考えたのか、回数を重ねると本質に辿り着くことができると分かるからだ。
- 国際社会では、環境や見方によって正解が変わってしまうこともある。そのようなことを許容できる人材を育ててもらいたい。